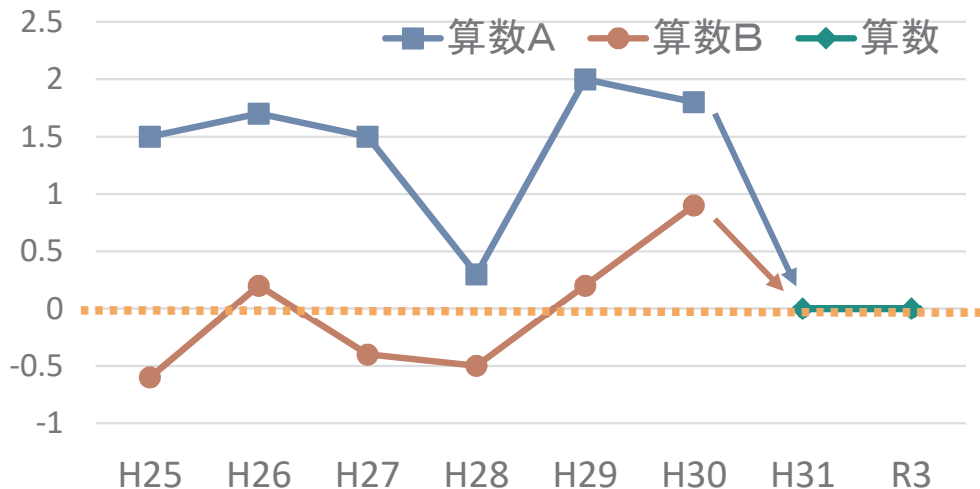


結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



・全国平均並みである。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と計算	64.1	63.1
B 図形	56.9	57.9
C 測定	74.7	74.8
C 変化と関係	74.9	75.9
D データの活用	75.7	76.0

○「数と計算」で全国平均を上回る。
 ▲「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均を下回る。

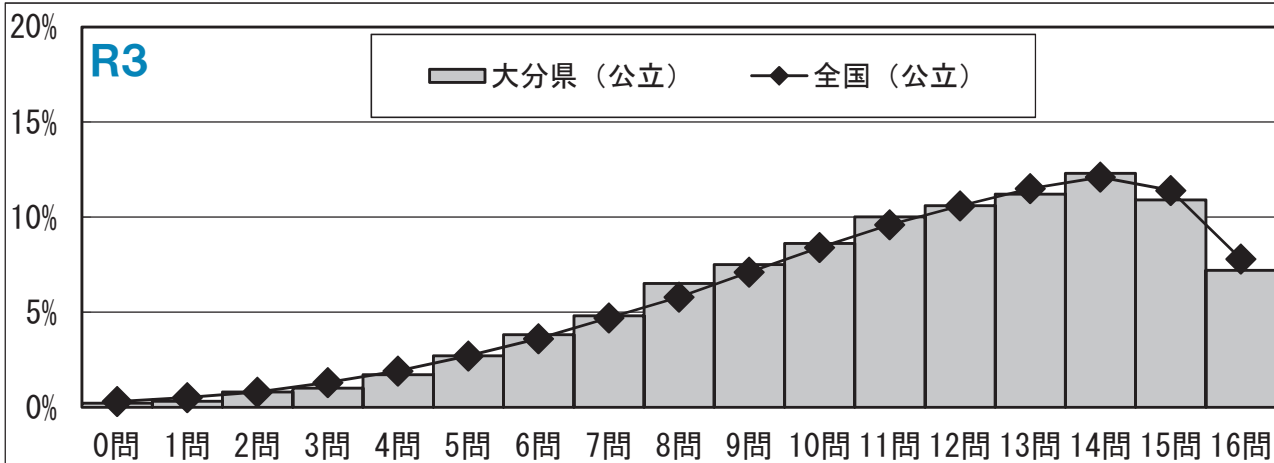
3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	73.8	74.1
思考・判断・表現	65.1	65.1
主体的に学習に取り組む態度	対象問題数0のため数値なし	

○「思考・判断・表現」の観点は全国平均並みである。
 ▲「知識・技能」の観点で全国平均を下回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
 ▲正答数が全国平均以上(11問以上)の児童は62.2%であり、全国値63.0%を下回る。

4 正答数度数分布



課題が見られた問題と指導の改善

1 正答率が低かった問題

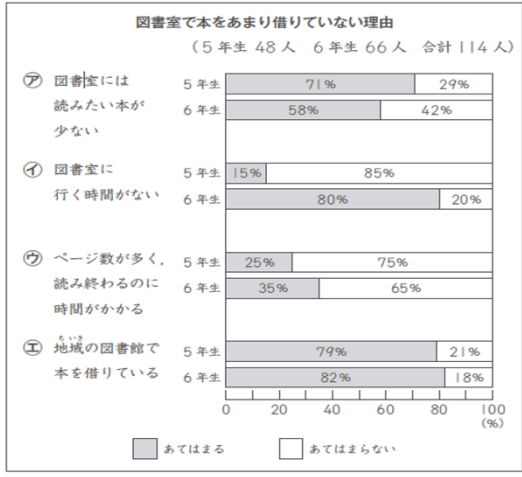
大問3(4)【大分県平均正答率50.8%，大分県無回答率8.3%】
 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いた記述できるかどうかをみる問題

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書館で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書館で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがあのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話合っています。

そうたさんとあやさんは、左のグラフの中の⑦から⑩までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね。

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。

項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

指導の改善

【学習指導のポイント】

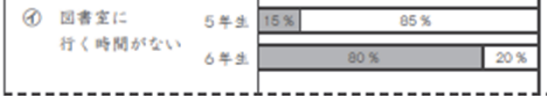
複数のデータから項目間の違いに着目し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする

○複数のデータについて項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにすることが重要である。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにすることも重要である。

○指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目や、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が、大きく違う項目を伝え合う活動が考えられる。

その際、下の図のように、一つの項目から5年生と6年生の「あてはまる」と答えた人の割合をそれぞれ読み取ることができるようにすることが大切である。また、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかななどを説明できるようにすることも大切である。

「帯グラフからどのようなことがわかりますか？」



「あてはまる」の部分の長さが大きくちがうので、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目は、「⑧図書館に行く時間がない」です。

解答類型		県平均正答率	全国平均正答率
正答例	・5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、「イ 図書館に行く時間がない」です。このイの「あてはまる」と答えた5年生は15%で、6年生は80%です。	50.8%	52.0%
誤答例	・「エ 地域の図書館で本を借りている」を表す言葉や記号を書いている。 ※5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目を、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合が大きい項目と捉えている。	16.8%	14.6%
	無解答	8.3%	10.3%